

# 大会レポート

## ゆき と じいじいの

### オリエンテーリング紀行

No 3

ゆき 渡辺 幸 6歳  
爺爺 武石雄市 63歳

#### [東日本会場で]

ゆき「じいじい、ぼく有名人なの？」

爺爺「どうして？」

ゆき「ぼくの知らないおばさんが、あなたが渡辺幸君なの？札幌のこと、オリエンテーリングの本で読みましたよ。楽しかったわ。今日は、おばあさん来てないの？って聞かれたよ」

爺爺「そうか。本に幸の写真を書いたから顔を覚えてくれたんだね。今日もオリエンテーリングをして作文書かか。」

ゆき「ぼく、今日オリエンテーリングやらない。作文も書かない。」

幸は作文が苦手らしい。そう言えば、昨日家を出る前にオリエンテーリングに行きたくないと言って泣いたことを思い出した。昨日の午前中学芸会だったが、その感想文を月曜日に持ってきなさいと原稿用紙を4枚も渡されていた。

それが小さな頭の負担になり、何時も楽しみにしているオリエンテーリングも止めてしまいたいくらい悲しかったのだ。

山形新幹線に乗る時間も迫っていたので、作文は宿か電車の中で書くことにして家を出てきたのだった。

宿(コンローラークリニック会場)で、村越玲君といっしょになって、爺爺がゴールするまでキッズオリエンテーリングコースがある鉄道文化村の中で遊んでいることに決めたのだった。

10月7日のさくらんぼの園オリエンテーリング大会で失敗したことも、一人でやる不安があるようだ。

爺爺「ゆき、この前、東根でやったオリエンテーリングのこと覚え

てる？」

ゆき「おぼえてるよ」

爺爺「あの時は何番で失敗したんだっけ」

ゆき「4番だよ」

主催責任者の爺爺は、12月号で反省記事を書いているが、本人から詳しく聞いて見ることにした。

爺爺「あの時は、幸たちのコースにスタートからゴールまで爺爺が全部テープを張ってあったでしょう。どうして4番に行けなかったの？」

ゆき「1番はグラウンドのところにあったし、2番は小父さんたちがラグビーをしているグラウンドの横を通って、どぶ橋のうえの林の中の小道を登ったら有ったし、3番は岩の崖のところにあったし・・・」

爺爺「土屋ゆうとくんも4番がペナだったけど...」

ゆき「ぼく、佑人君を追い越してテープのとおり走っていたけど、佑人君もぼくの後を一緒に走って4番を探したんだよ」

爺爺「3番からお地蔵サンの前を抜けてからどうしたの？」

ゆき「3番からー？、道を走って、小川を飛び越えてリンゴ畑の中を通って道路を走って行ったら小川のところにポストがあったよ」

図 - 1 点線がテープ敷設ルート

爺爺「小川のところは5番だったと思うけど、カードの4番にはパンチしなかったんだね」

ゆき「だってさ、4番の番号と違うんだもん。5番の番号だったからカードの5番のワクにパンチしたんだよ」

札幌のモエレ沼パーク O でも各コントロールで記号を確認してからパンチしていた。習性になっているようでこの点は感心した。

爺爺「4番を通り越してきたんだからどうして戻らなかったの？」

ゆき「だってさ戻っていったら道路のところからテープが切れてるんだもん。5年生のグループの人たちも来るし家族の人たちも来るし、ぼくたちも6番のほうに行っちゃたんだよ」

責任者としてはここで2点、深く反省しお詫びしなければなりません。

1点は、MWN クラスの全コースをテープ敷設したが、農道や道路を横断するとき、トラクターや車の通過でテープが邪魔になったり切断されたりしないように、そこだけ敷設しないで前進方向(?)にぶら下げたのでした。しかし、何事もなく前進しているものには難なく、前方のテープは見えるが、幸たちのように戻る方向からは見えにくいところがあったようだ。(反省!!)

もう1点は、飛び越しの直接原因となった4番コントロールは、道から15m程のドッグレッグの横穴の入口だが、当然のように、道からは視認出来ない。

テーブル敷設に当たって必ずドッグレッグしてくれるようにダブルテーブルで工夫した積もりでしたが、小さなアスリートたちはもの見事にセッターの心配を的中させてくれた。

爺爺「後から工藤みちあき君や春佳ちゃんが追い付かなかったの？」

ゆき「みちあきくんも春佳ちゃんも全然見なかったけど先にゴールしているんだもん。近道したのかなぁ」

爺爺「みちあきくんはテーブルのとおりに行ったとってたよ。石川県のときはゆきと爺爺に負けて悔しかったけど、今度は幸君に勝てたからとってもうれしいって言ってたよ」

ゆき「ふーん」

幸は、表情では悔しそうに見えなかったが、当日、ゴールしてペナを申告したときはとっても悔しがってたそうだ。

#### [北海道・東北選手権大会]

幸は、久しぶりに家族みんなで福島市のオリエンテーリング大会に行くことになった。

爺爺「ゆき、爺爺は今日東北選手権で頑張るんだけど、ゆきはどのクラスに出るのかな」

ゆき「ゆきたち、パパが綺羅坊(弟の綺羅を幸は親しみを込めて綺羅坊と呼ぶ)をおんぶしてママもいっしょに家族組に出るよ」

爺爺「綺羅君は太ってて(13Kg)重いからパパが大変だけど頑張ってるね。」

ゆき「雨が降ってきたけど、僕おやつとポカリのジュースをリュックに入れたから頑張るよ」

グループはスコア0で、途中の林の中で爺爺が走っているところを見つけて、大声援を受けた。

ゆき「じいじいガンバレー、僕たち今から橋の所の302番に行くところですよー」

爺爺「そうか、綺羅君大丈夫かー」  
ゆき「じいじい頑張れ!、じいじい頑張れ!」

きら「じっじいー」

爺爺「きらくん、応援ありがとう。ゴールで待ってるからね」

綺羅君は今日がオリエンテーリング大会デビューなので、爺爺は幸と同じトリムテックスをプレゼントしたんだが、何故か着ていない様だ

車のキーを幸のママに預けたので爺爺は小雨の降る中、ゴールで幸たちを待った。程なく家族4人が見えた。

爺爺「幸君、綺羅君、頑張れ!」  
爺爺「幸どうだった?楽しかった?」  
ゆき「最初のころは林の中で楽しかったけど、橋を渡って向こう側は田んぼや畑でつまんなかった。僕、やっぱり走るオリエンテーリングがいいな」

#### 図 2 スコアの全コントロール

でも、負けたと思っていたもう1組の家族のグループが別のクラスだったようで、1位の賞品を家族みんながもらって喜んでいました。

後で爺爺の家に成績表が送られてきたけど、幸たちグループの成績が載ってなくておばあさんに自慢できなくながっかりしていた。

筆者も、参加者も多くなかったしタイトルに「併設福島市オリエンテーリング大会」と明記している以上、掲載しないことに不審を覚えた。

学校の遠足ではないんだし、コントロールも手を抜かないでオリエンテーリングらしくしないと、子供たちも興味を失って参加しなくなるのが心配です。

例え、距離が短くても森の中のコースだから、次のコントロールの発見が嬉しいし、つらい草の中も頑張れるのだと思います。

今度の「米沢2日間大会」は大勢の子供たちが予想される。子供たちにオリエンテーリングが楽しい競争であることを知らしめるようにコース設定はしっかり工夫したい。